－所蔵作品紹介－

佐藤　進　SATŌ Susumu

鳥ぐもり

とりぐもり

作品データはこちら

佐藤進は最後のサインまで現場で仕上げる徹底した野外制作主義者だったが、水彩画の制約上、冬に野外での制作はできないので、静物（人形、果実など）を描いたり、暖かい所へ旅行に出かけて、風景の小品を描いたりしていた。この作品は、自宅の二階の窓から見える近所の風景を描いたものである。手前に樹木を、後方に建物を描く題材の選び方は「館」シリーズと大きく変わらないが、右手の樹木が左へと傾く方向に家々のトタン屋根が連なり画面に奥行きを与えている。「鳥ぐもり」とは、俳句（作者の趣味）の季語で、渡り鳥が北へ帰る頃の曇り空のことである。画面上方に曇り空が見え、雪はまだ解けるのに時間がかかりそうだ。北国の遅々とした春の進行を感じさせる作品である。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より